難関校が語る、私学の魅力

神戸女学院 中学部・高等学部

キリスト教主義を不変の根幹に 一人ひとりを大切にする教育を実践

礼拝は静かな自己研鑽の場 伝統を磨き続ける校風

アメリカ人女性宣教師が開いた私塾をルーツに1875年に創立した本校は、140年余りにわたってキリスト教主義を大切にしてきました。永久標語に掲げるのは「愛神愛隣」。神様を愛し、隣人を愛すという聖書の言葉が原点で、自分の持つ力を隣人のために役立て、社会に奉仕できるよう、志高く学んでほしいという思いが込められています。これは本校の不変のバックボーンで、毎朝20分間の礼拝や週1回の聖書の授業は、その象徴です。礼拝では在校生や卒業生の話を聞く機会も多く、下級生は先輩の体験談に耳を傾けるうちに刺激を受けたり、目標を見つけたりします。

11月の宗教強調週間には、講師を招いて講演を行いますが、それだけで終わらず、「白熱教室」と題した議論の場を設けて考えを深め、異なる価値観を受け入れ、共感することを学んでいきます。模擬国連や数学オリンピックなど、世界の舞台で自分の力を試そうという積極的な生徒が多いのも、こうした体験がベースになっているからだと思います。

また、アメリカ人の神学者ラインホルド・ニーバーの「変えられないものは穏やかに受け入れる力を、変えるべきものは変える力を与えてください」という言葉を踏まえ、変えてはいけないことと変えるべきことを見極める作業も重視しています。たとえば、学校行事の実施方法、内容も、安全性や生徒のニーズを考慮し、教員と生徒が議論を尽くして、時宜にかなったものにします。伝統だから続ける、あるいは教員の鶴の一声でやめるということはせず、生徒と教員が一緒に考えることを大事にしています。

試行錯誤して答えを見つける 中学3年間が探究力やプレゼン力に結実

一人ひとりを大事にして、いろいろな才能を伸ばすリベラルアーツ教育も、創立以来変わらない本校の特色です。コースを設けず、中学3年間は全員同じカリキュラムで基礎を固めるのはそのため。問いを立てる力を養い、試行錯誤のなかで答えを見つける学習がリベラルアーツの神髄です。自分の興味、個性、学んだことを駆使して取り組む「探究」と題した総合学習で、その成果を見ることができます。

2014年、重要文化財に指定された神戸女学院岡田山キャンパス

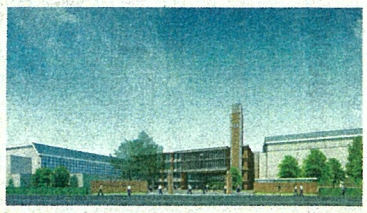
もう一つの特色である英語教育に関しては、本校の生徒に合う教授法の集大成としてまとめられた「クルー・メソッド」に則して授業を展開しています。赤ちゃんが母語を獲得するように、自然に英語を身につけてもらうのが特徴で、中学3年間はすべて英語で授業を行います。中1では聞くところから始めて正しく発音する力を、中2では聞く力の強化に加え、徐々に発話や「読む」「書く」の活動を増やし、中3では英語による簡単なプレゼンテーション力、まとまりのある英文を書く力、読解力を磨いていきます。高校になるとさらにディベートやディスカッション、クリティカルライティングにも取り組みます。

主体的な経験や学びを大事にすることで感動や喜びは大きく膨らみ、それがその後の伸びを支える土台となります。これから中学受験に臨む皆さんは、小学生のうちに、読書習慣を身につけたり、興味の引き出しを増やしたりしてみてください。

神戸女学院中学部・高等学部 部長
林 真理子 先生

高槻 中学校・高等学校

新時代に求められる資質・能力を備えた 次代を担う人物を確かに育成する


2020年までに完成予定の新校舎

今春より男女共学化 「新生 高槻」がスタート

本校は1940年の創立以来、男子進学校として実績を挙げてきましたが、大阪医科大学、大阪薬科大学との法人合併を機に2017年度から女子生徒を受け入れて共学化し、「新生 高槻」としてスタートしました。4月に入学した中1の女子生徒を見ていると、実に活発で優秀です。共学1期生という自覚も強く、これまでとは異なる文化が生まれると期待しているところです。

本校が育てたいのは、新しい時代に求められる資質・能力を備えた、次世代を担う人物です。そのため共学化にとどまらず、伝統を継承しつつ時代を先取りする教育活動をいち早く展開してきました。文部科学省指定のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）、スーパーグローバルハイスクール（SGH）に関する活動もその一つ。生徒は中3からSSHの活動を柱とするGS（グローバルサイエンス）コース、SGHの活動を柱とするGA（グローバルアドバンスト）コース、幅広い分野をバランス良く学ぶGL（グローバルリーダー）コースに分かれます。

授業の形式も大きく変えてきました。アクティブ・ラーニングについても早くから専門家の指導を受けて取り組み、今では全国から視察に来られるまでになりました。生徒と保護者のニーズに応えるため、やれることは全部やります。めざしているのは、「最優の進学校」。進学実績だけではなく、リーダーとして活躍するために必要な力が身につく学校にしたいと考えています。

大阪医科大学・大阪薬科大学と合併 新キャンパス整備も進行中

法人合併した大阪医科大学・大阪薬科大学との連携も強化しています。GSコースでは大阪医科大学で基礎医学講座を受講したり、へき地医療の研修に参加したりするなど、医学部に合格するだけでなく、医者としての志が持てるようなカリキュラムを提供しています。一方、GAコースでは、大阪医科大学と連携して世界の健康問題を解決する「グローバルヘルス」について探究しています。現在、大阪薬科大学のみに設けられている推薦入試枠を、数年のうちには大阪医科大学でも整えるなど、大学との連携をまだまだ強めていく予定です。

新しいキャンパスの整備も着々と進んでいます。今年3月には高校校舎が完成。1階には理科の実験教室が7室並ぶサイエンスストリートが誕生しました。来年の夏には図書館と、生徒たちの発表の場にもなる300人収容の講堂が完成し、2020年までにすべての工事が完了する予定です。

本校はこれからも「最優の進学校」をめざして歩み続けます。勉強はもちろん、「あれもしたい、これもしたい」という好奇心旺盛な生徒は、何でもできる環境がそろっている本校に、ぜひ、来てください。中高6年間でいろいろなことに挑戦できると思います。

高槻中学校・高等学校 学校長
岩井 一 先生

受験生へのメッセージ

経験は成長の糧 失敗を恐れずに挑戦しよう

SAPIX YOZEMI GROUP 共同代表
高宮 敏郎 氏

「学力の3要素」は世界標準になりつつある

先日、アメリカのボーディングスクール5校を視察しました。名門と呼ばれる学校に共通していたのは、少人数で行うディスカッション中心の授業です。みんなで多様な意見を出し合い、それぞれの考えを共有することを大事にしていたのが印象的で、世界で活躍するにはこうした力が求められるのだろうと感じました。

日本でも文部科学省が高大接続改革を推進するなかで、アクティブ・ラーニングの重要性が指摘されるようになりました。他者の意見を聞き、自分の意見を述べ、それを共有して課題を解決する力が、いよいよグローバルスタンダードになってきたと実感しています。討論を重視し、思考力を育てるサピックスの授業も根本は同じです。アメリカの生徒たちを見て、あらためてサピックスの教育への自信を深めました。

学校が変わっても 学校選びの基準は変わらない

日本の教育が曲がり角にきたといわれる現在、中学受験を考えるうえでの学校選びはより難しくなっているかもしれません。ブランドなのか、難関大学の合格実績なのか、教育方針なのか。基準はさまざまですが、やはり大切になるのは、お子さんの気持ちではないでしょうか。お子さんが「ここで学びたい」と思えるような学校を選ぶことが、その後の大きな成長につながります。

そのためには、実際に足を運んで学校の空気に触れることが不可欠です。元野球選手の松井秀喜さんは、ニューヨークのスタジアムでヤンキースの試合を見て、「自分もここでやりたい」とアメリカに渡ることを決意したそうです。メジャーリーグに行きたいというのではなく、「ヤンキースでプレーがしたい」と。現地に行って、初めてわかることがあるのですね。

好きな学校が見つかれば、受験勉強の最大のモチベーションになります。2020年度には大学新テストが導入されますが、本質的な学校選びの基準は変わらないと思います。

トライアル・アンド・エラーで 生きた経験を重ねる

受験生をはじめとする子どもたちには、自分の目で見て感じる経験をさまざまな形で重ねてほしいと思います。トライアル・アンド・エラーをどんどん経験しましょう。サピックスでは、チャレンジする機会を多く提供する授業を実践しています。切磋琢磨できる仲間もいます。こうした教育を進めるなかで、失敗を恐れず、恥をかくことを嫌がらない生徒を育てたいと考えています。

ご家庭でもぜひ、お子さんの挑戦を大事にしてあげてください。たとえそれが失敗に終わったとしても、挑戦した経験は必ず将来につながると思います。